

2018年9月 ビシュナプールコロニーワークキャンプ報告書



【活動日程】 9月7日～9月25日

【活動場所】 インドウエストベンガル州バンクラ地方ビシュナプールハンセン病コロニー

【参加者（日本）】 計8人

村松翼（筑波大学3年）、板倉加奈（愛知教育大学大学院1年）、
杉山仁実（筑波大学4年）、渡辺桂舟（筑波大学1年）、
南真咲（筑波大学1年）、山田実乃梨（筑波大学1年）、
檀上伊武希（筑波大学1年）、奥村駿也（名古屋大学1年）

【参加者（インド）】 計0人

【活動報告】

《ワークプロジェクト》

《概要》 今回のワークキャンプでは、前回渡航時に雨漏りを訴えていた8軒の屋根を修繕した。キャンパーは、対象家庭の村人と協力しながら、がれき撤去や資材運搬などの作業を行った。なお、技術が求められ危険が伴う作業は専門の職人に依頼し、安全に作業を進めた。

《目的》 対象家庭の雨漏りを解消し、彼らが安心かつ安全な暮らしを送れるようになることが目的である。また、作業を村人と協力して行うことで、村人が自らの暮らしやコロニーの環境を良くしていくという自助意識を高める、という効果も期待した。

《成果》 作業は、キャンパーの帰国時には完了し、雨漏りのない屋根に改装することができた。これにより、コロニーの居住環境の改善がまた一步前進したと言えるだろう。しかし、村人の自助意識の向上に関しては、不十分であったと考える。なぜなら、一部の村人が作業に参加するのみであったためである。この目的に関しては、今

後さらなるアプローチが必要であろう。



図 1 修繕前の屋根



図 2 修繕後の屋根



図 3 材料を運んでいるところ



図 4 砂をふるうキャンパー

《進学応援プロジェクト》

<3hope 調査>

《概要》2016年よりコロニーの3人の大学生（通称3hope）に対して実施している奨学金プログラムである。彼らには、namaste!から奨学金を受け取る代わりに子どもたちに勉強を指導するボランティアティーチングや大学での暮らしを報告することを課している。そこで今回は、奨学金の会計と共に彼らの活動を把握するために調査を実施した。

《目的》本プロジェクト開始当時の目的は、「子供達が大学進学し、安定した職業を得て労働を経験し、社会に属し、貢献できるという喜びを知ること、ハンセン病コロニー出身であることから生じた被差別意識をなくす」である。そのため、この目的の達成するために、3hopeの経過観察と今後のための調査を目的とする。

《成果》3hopeに対する調査により、彼らの現況を把握することができた。それぞれ違いはあるものの、勉強や大学生活を楽しんでおり、卒業を控えた現在は就職活動にも取り組んでいる様子であった。また、ボランティアティーチングを定期的実施して

いることも把握することができた。



図 5,6 今勉強している内容を聞いている様子



図 7 将来について語るゴネス君

<次世代調査>

《概要》3hope は卒業を控え、3年にわたるボランティアティーチングや学生生活によってコロニーのロールモデルになりつつあると言える。そこで、次世代の子供達に対して、彼らを与えた影響や子供達本人の学習意欲、現在の学力や将来の夢などを調査した。

《目的》3hope がコロニーのロールモデルとなりつつある今、彼らの下の世代に対する教育プロジェクトの必要性が浮上した。そこで調査により、次世代の子供達の現況を把握し、今後どのようなプロジェクトが必要となりうるかを考える材料を得ることを目的とする。

《成果》子供達は 3hope に対して憧れや尊敬の念を抱いており、本プロジェクトが目的とした「コロニーのロールモデルの創出」が達成されつつあることが把握できた。また、子供達の現況を把握することで、今後どのようなプロジェクトを展開すればいいかを判断する材料を得ることができた。



図 8 子供達の教科書を一緒に見ている様子



図 9 3hope に対する憧れを語る子供達

《B&A プロジェクト》

《概要》本プロジェクトは、Before リサーチと After リサーチに分かれる。Before リサーチでは、村人参加による村人ミーティングと各家庭への調査を実施する。After リサーチでは、直近 2 回のキャンプで実施したワークの事後評価を実施する。

《目的》Before リサーチでは、次回以降のワークニーズを把握することを目的とする。一方、After リサーチではキャンパーが実施したワークに問題がなかったかを把握することを目的とする。また、各調査を通じて村人と密に接し、信頼関係を築くことも目的とする。

《成果》Before リサーチでは、調査を通じてコロニーのワークニーズを把握することができた。また、前回より村人の姿に迫った調査を実施することができた。After リサーチでは、1 軒を除き対象家庭に問題がないことも把握できた。



図 10 村長に話を聞くキャンパー



図 11 ゴネス君に通訳をしてもらっている様子



図 12 家屋の状態を確認しているところ

《エンタメプロジェクト》

《概要》ワークキャンプの終了にあたりフェアウェルパーティーを村人と共同で開催する。コンテンツは村人、キャンパーそれぞれのダンスである。キャンパーはパーティーに向けて毎朝ダンスを練習する。

《目的》パーティーを通じてコロニーの人々と交流を深め一緒に楽しむことによって、今後の良いワークキャンプ開催につなげることを目的とする。また、コロニー外の人々にも来てもらい、コロニーへの悪印象を払拭する目的もある。

《成果》パーティーは滞りなく終了し、キャンパー・村人双方が楽しめた会であった。また、コロニー外の人々も多く訪れ、大盛況であった。ただ、村人はキャンパーが毎回踊るソーラン節に飽きているようであった。



図 13 日本人のダンス



図 14 村の子供達のダンス



図 15 キャンパーが村人にあいさつをしているところ